

問われる計画運休の時期!

J R 東海の丹羽社長は9月4日、定例記者会見で、台風10号の影響で東海道新幹線が8月30日～9月1日の3日間、三島～名古屋間の上下線で計画運休したことについて、新幹線をご利用されるお客様に対して、「ご不便をかけたしまったが、安全最優先を考えて最善を尽くした」とコメントしました。

せっかく台風7号では早々と二日前に計画運休をプレス発表したのに!?

8月29日に何故新幹線を通常運行させたのかが問われます!

今回、台風は、確かに予想しにくい進路でしたが、大雨は、テレビや、インターネットニュースの雨雲レーダーを見れば素人感覚でも予測しやすく、8月27日から静岡地域中心に降っている雨の連続降雨量に少しでも雨が続きばすぐに規制値に達する状況でした。その様な状況にもかかわらず、8月29日、始発から通常通りの運行を開始しましたが、18時50分に終日の運休を発表しました。

近年では、「災害時は社会機能を一旦停止してやり過ぎす」という社会的な合意ができ始め、鉄道の計画運休が社会に定着しつつあります。そういう中での29日の運行は、過去の教訓が活かされず、再び乗客と乗務員が本線上で長時間に及ぶ缶詰状態におかれました。

これまでも、大雨等の無理な運行に対して会社との業務委員会等で組合側から口を酸っぱくして追及しても「適切な判断だった。結果的に大雨は予測が立たない」などと、運行を続行させたことへの反省は全く言わないのが定番となっていました。

次回からは、社長のコメント通り、安全最優先で、運行を止める大胆は判断が必要になります!!